

船長久

町勢要覽



岡山県邑久郡長船町

1971

目 次

沿	革	1
位 置 . 地	勢	2
氣	象	3
人	口	4
行	政	5
議 決 機 関		6
財	政	7
消	防	9
選	挙	10
産 業 経 済		11
保 健 福 祉		19
運 輸 通 信		23
上 水 道		24
教 育 文 化		25
観	光	29
町 民 生 活		32

往古美和村は海部族の勢力下に属していたといわれ大化の改新後、備前国邑久郡に属し、須恵郷と呼ばれ、その後荘園となって須恵保となり正平8年、後村上天皇が勅願寺とされた出雲国雲樹寺の寺領であった。なおこの地方には陶部の部民が居住して、土器の製作が行なわれたもので地名もこれに由来したものと思う。文禄4年制度改正により東須恵・西須恵・飯井の3ヶ村となりその後慶長5年小早川秀秋の所領となり同8年池田忠継の領有に移り、さらに寛永9年池田光政の所領となったが明治4年7月廃藩置県により岡山県に属し明治22年6月3ヶ村合併して美和村となる。

国府村も往古海部族の勢力下で古くより土師・磯上・牛文 福里の4集落に分れていたが大化の改新により備前国邑久郡に属し、土師は土師郷、磯上は石上郷、牛文は須恵郷、福里は服部郷に所属した。なお土師の地は往古、土師焼と称する土器を作る器部が土着したものと考えられ、これに由来した地名であろう。

その後土師村は大熊田・宮下・磯上村は西岡・大塚に分れたが明治8年にそれぞれ土師村・磯上村に合併した。明治22年6月町村制施行の際牛文・福里・土師・磯上が合併して国府村となった。

行幸村は大化の改新後、備前国邑久郡に属し、古くから服部・福岡・長船・八日市・福永の5部落に分れており、このうち服部は服部郷、その他は靱負郷の領域であった。靱負郷は上古の靱負郷に由来するものと言われ、靱負とは当時大伴、久米の人々が従った武士の団をさしたものである。平安時代には荘園発達によって服部郷は服部荘、靱負郷は靱負荘と呼ばれ福岡、八日市福永は福岡荘と称せられた。

長船村、福岡村の地は古来備前刀の産地として広く知られ、数々の名工が輩出し、特に後鳥羽帝の時番鍛冶とされたものが7人にのぼったといわれる。また福岡村は寛文年間まで上道郡に属していたが吉井川の流路の変遷で寛文4年邑久郡に編入されたもので、文明15年赤松政則と松田元成が戦った福岡合戦のあった地である。江戸時代は一時小早川氏が領したがその後、池田忠継から光政の所領となった。明治7年長船村・八日市村・福岡村・服部村となり明治22年6月4ヶ村合併し、明治18年明治天皇中国地方御巡幸の際当地に行幸されたものを記念して行幸村となった。

その後美和村・国府村・行幸村は独自の自治体として歩んで来たが地方自治行政確立強化の大目的のため国策に応じ昭和30年3月31日3ヶ村が合併し「長船町」として新発足し現在に至っている。なおこの町名は全国に古くから知られている長船の名刀に因み名づけたものである。

位置地勢

長船町は岡山県の東南部、邑久郡の最北端にあり、岡山市より国道2号線を東へ約20km、西は吉井川を隔てて上道郡上道町、赤磐郡瀬戸町に接し、北東部は和気郡備前町に、そして南部は邑久町に接している。

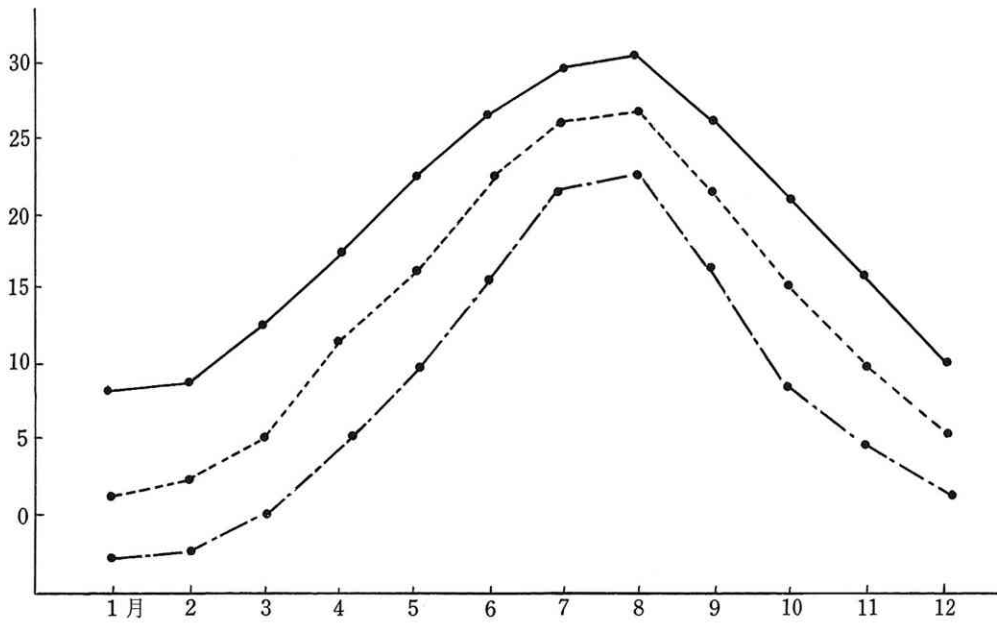
人口6,766人、面積29.33km²を擁し平坦部に吉井川デルタと海底の隆起とされる部分から形成されている。



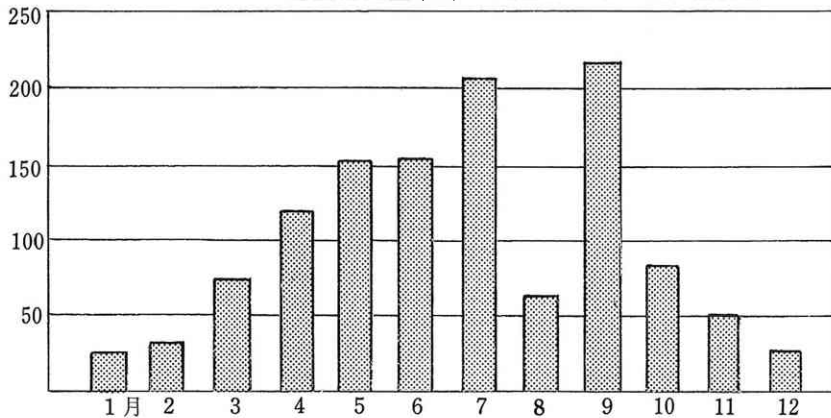
気 象

本町の気象は瀬戸内海の内海の影響を受けて、気候は温暖で比較的晴天日数が多く平均気温は14.7℃年間降雨量は 1,278mmで南に四国山脈、北に中国山脈でさえぎられ、風水害も少なく恵まれた気象条件で農作物の栽培に適す。

月別最高・最低平均気温 (昭和32年～43年 12年間平均)



月別降雨量 (mm) (昭和32年～43年 12年間平均)



人 口

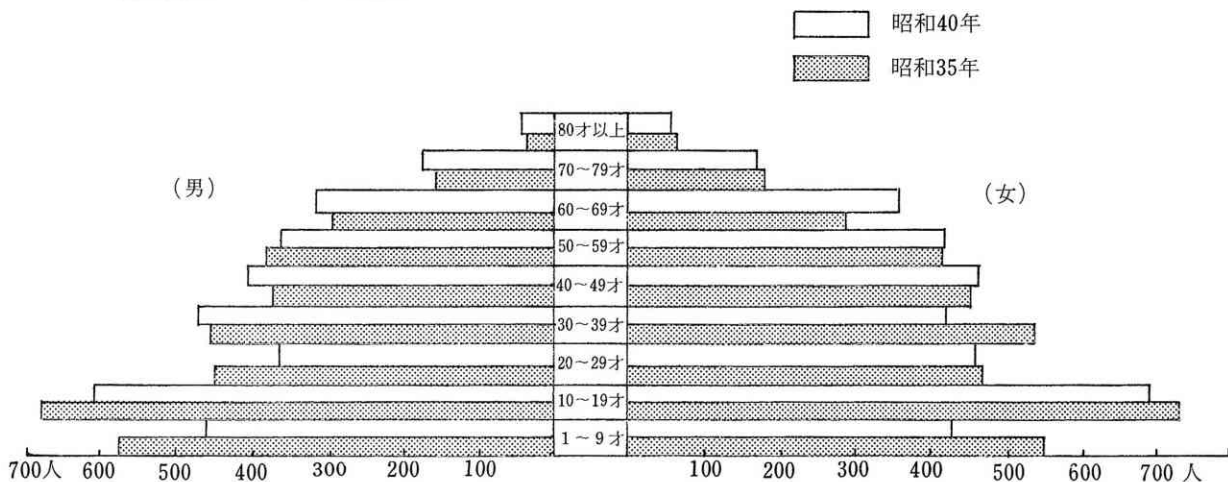
総人口 6,737人（昭和45年 4月1日住民登録）

国勢調査からみると昭和30年から昭和40年の間に 743人の減少を示し住民登録人口においても昭和40年から44年までの間に若干減少しているが、当町は地理的に比較的好条件にあるため社会情勢の進展と諸施策の実施によって、数年をまたずして、昭和30年の人口を上廻ることは必至と思料する。

人口と世帯数（昭和30年～45年）

年 次	人 口			世 帯 数	1世帯当り	人口増加指数 (昭和30年=100)
	総 数	男	女			
昭 30	7,501	3,658	3,843	1,523	4.9	100.0
昭 35	7,110	3,421	3,689	1,571	4.5	94.8
昭 40	6,758	3,194	3,564	1,565	4.3	90.1
昭 45	6,737	3,204	3,533	1,634	4.1	89.8

国勢調査による年齢階級別人口

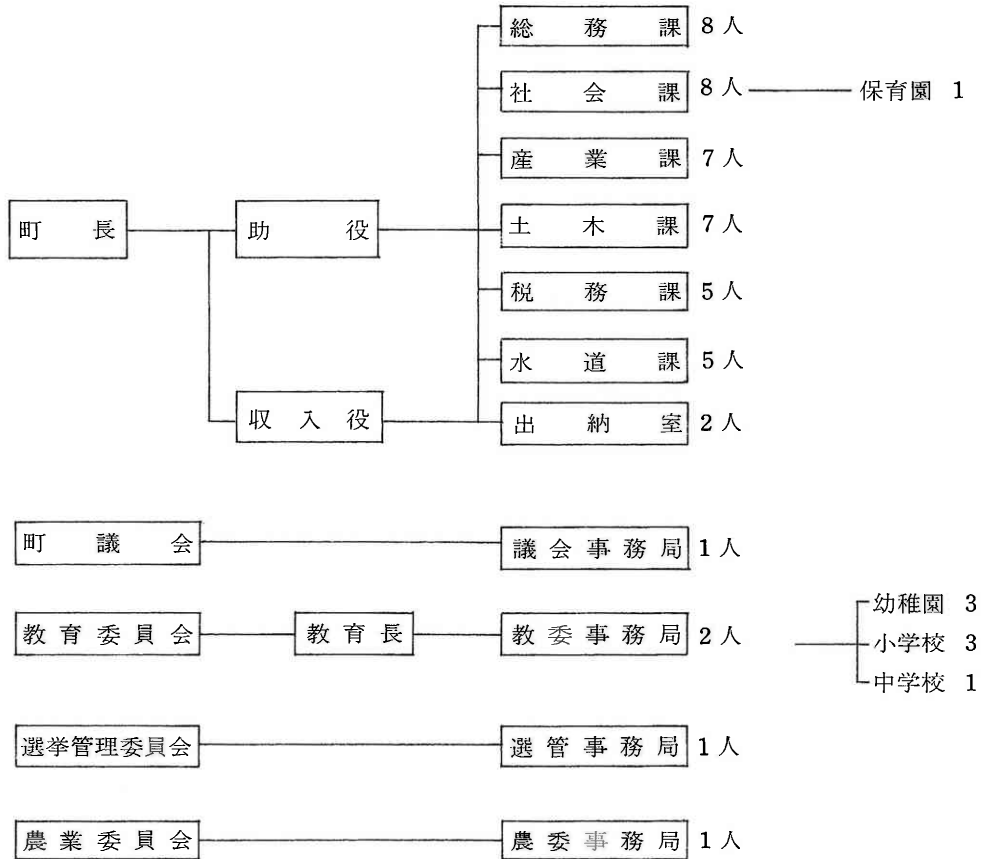


行政



榎本町長

行政機構



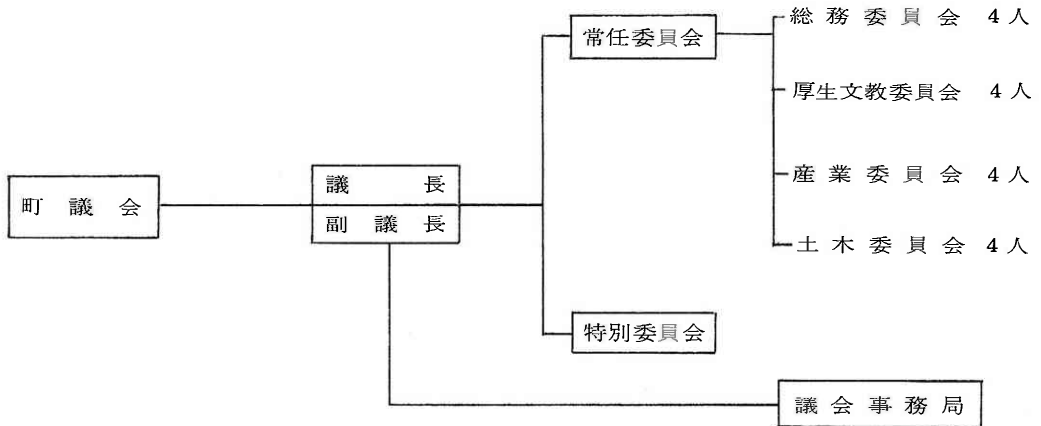
議決機関

町議会

長船町議会は定数16人の議員で構成し、6,700余の住民の意志決定機関としてその要請にこたえている。



山内議長



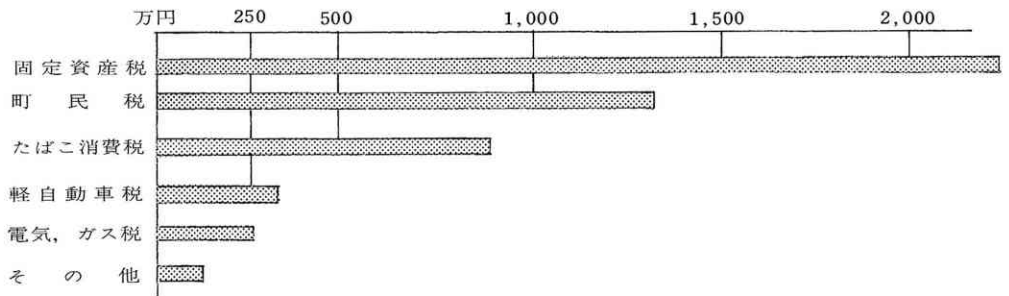
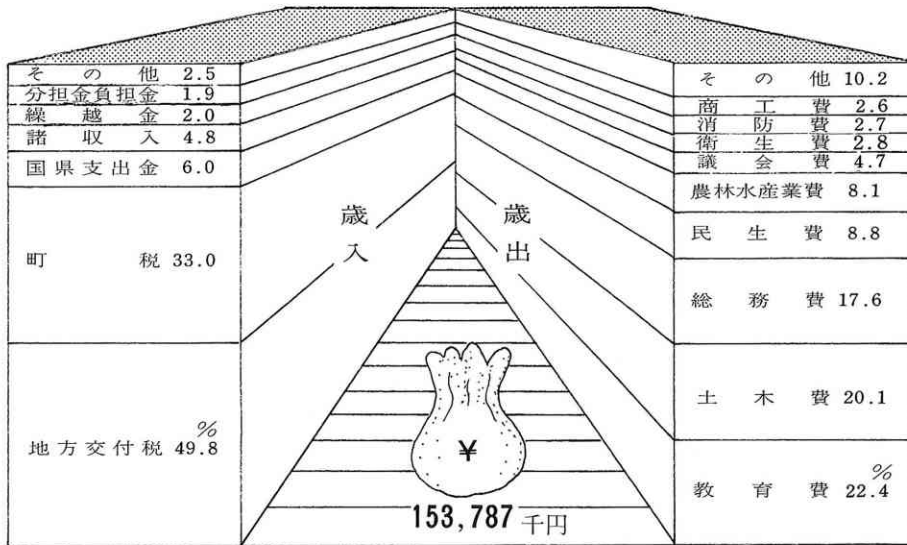
長船町役場庁舎

財 政

昭和30年3ヶ村合併によって誕生した本町は飛躍的に大きくなった財政力により産業教育、厚生、土木等各般に亘る施設整備の事業が行なわれてきた。この間予算の計画的執行により健全財政を維持しながら合併初年度決算額37,505千円のものが昭和43年度決算額において4.1倍の155,055千円となり大幅な膨張をきたしている。

これは行政の飛躍的な向上を意味するものではあるが一方年々増大する財政需要に対し財政収入は頭打ちの状況で今後の町財政の運営は前途きびしいものがあるといわざるを得ない。今後ますます財政の合理的運用と産業の振興を図り財政力の増大による町発展の基礎を築きたい。

一般会計初当予算（昭和45年度）



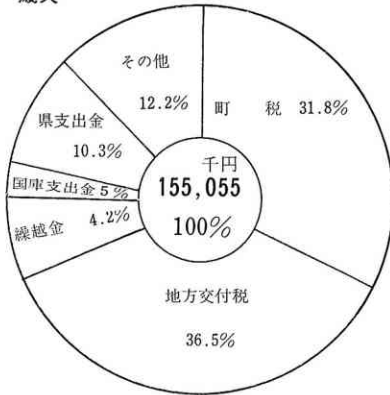
一般会計予算額（昭和45年度）

（単位 千円）

歳 入			歳 出		
科 目	当初予算額	割合	科 目	当初予算額	割合
総 額	153,787	100	総 額	153,787	100
町 税	50,819	33.0	議 会 費	7,217	4.7
地 方 交 付 税	76,650	49.8	総 務 費	27,102	17.6
分 担 金 及 び 負 担 金	2,944	1.9	民 生 費	13,595	8.8
使 用 料 及 手 数 料	2,025	1.3	衛 生 費	4,362	2.8
国 県 支 出 金	9,211	6.0	農 林 水 産 業 費	12,415	8.1
財 産 収 入	78	0	商 工 費	4,069	2.6
寄 附 金	342	0.2	土 木 費	30,899	20.1
繰 越 金	3,000	2.0	消 防 費	4,088	2.7
諸 収 入	7,218	4.8	教 育 費	34,429	22.4
地 方 債	1,500	1.0	公 債 費	7,972	5.2
			予 備 費	7,639	5.0

一般会計決算額（昭和43年度）

歳入



歳出

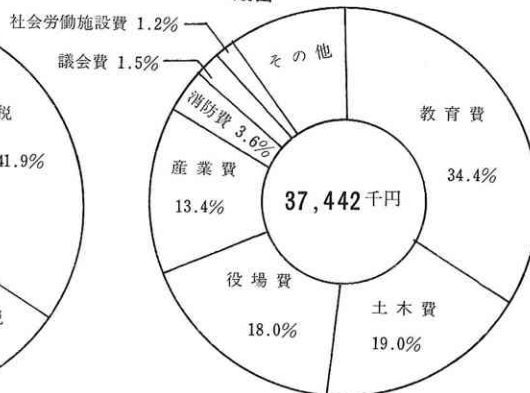


合併初年度（昭和30年度）一般会計決算額

歳入



歳出



消 防

団 員 数 135人

本町は従来から施設器材の整備充実に努めその消防施設充当率も86.5%に達しほぼその目標を達成したので今後は防火水槽の補充整備，水道消火栓の計画的増設，消火器の全戸普及を図り早期消火と火災予防思想の普及徹底に努め火災の発生防止に万全を期している。



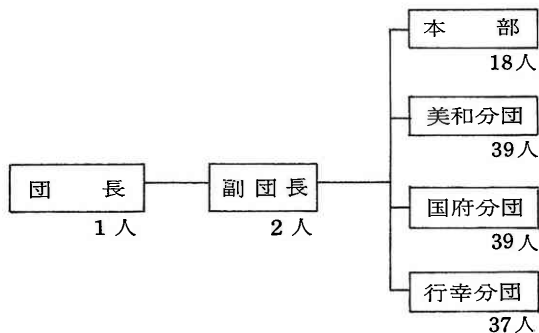
火災予防の啓蒙活動

施設器材現有数

自動車ポンプ	可搬式動力ポンプ (5)	手引ポンプ (5)	防 火 水 槽			消 火 栓	消 火 器
			40m ³	20~40m ³	20m ³ 以下		
4	17	5	4	5	25	114	576

()内は自衛消防器具を内数として示す。

消防団の構成



消防団訓練風景

選挙

選挙啓発運動の推進によって投票率も漸次向上し、特に低調であった婦人層に対しては婦人会に呼びかけた結果、選挙ごとに上昇し男子に必適するに至った。全般的に末だしの感を免がれないものがあり今後更にその徹底を期したい。



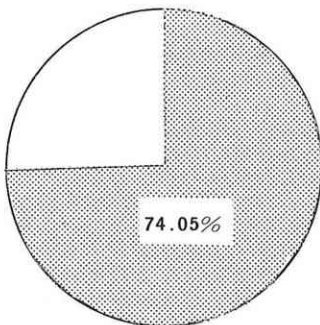
開票風景

有権者数（昭和45年3月）

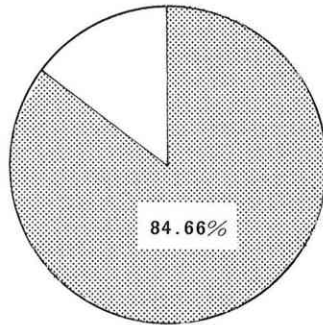
	総数	男	女
総数	4,872	2,255	2,617
美和地区	1,166	541	625
国府地区	1,955	916	1,039
行幸地区	1,751	798	953

最近の選挙の投票率

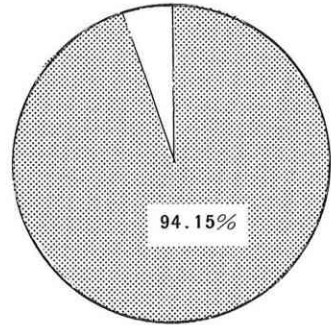
衆議院選挙（昭44年）



知事・県議選挙（昭38年）



町長・町議選挙（昭42年）



産業経済

農 業

本町の農家戸数は 1,259戸で町内全戸数の約77%を占めている。経営耕地別には 1 ha 以下の農家が72%、専業農家は僅か12%で年々減少する反面、兼業農家はますます増加の一途をたどっている状況である。従って農業就業者も老令婦人化し必然的に第二種兼業農家の増加が目立っている。経営耕地は944ha、農家一戸当り経営規模は75 a で社会の生活水準を維持するためには農外所得に依存せざるを得ないものがあり特に米作地とする本町における米の生産調整は深刻な打撃であり、ますます兼業化は急速に増化する傾向は否めないが、これは単に一町一県の指導的役割をもってしても如何ともし難い難勢で国の強力な施策を期待するものである。

農業経営の状況

年 次	専業農家	一種兼業	二種兼業	計
昭 3 5	5 2 0	4 3 7	3 6 8	1,325
昭 4 0	1 8 5	5 1 4	5 7 4	1,273
昭 4 5	1 5 4	3 3 6	7 6 9	1,259

経営耕地面積

年 次	30a 未満	30~50a	50~70a	70~100a	100~150a	150~200a	200a以上	計
昭 3 5	2 1 0	2 3 6	2 2 6	2 9 0	3 1 0	5 0	3	1,325
昭 4 5	2 1 9	2 1 6	2 3 2	2 4 0	2 7 6	6 2	1 4	1,259

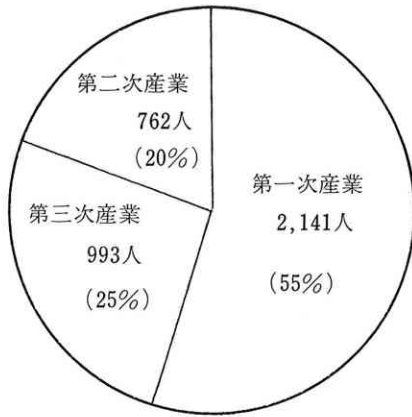


水稻集団栽培現地研究会風景



水稻ばら播栽培

産業別就業人口 (昭和40年)



産 業	昭和40年	昭和45年推計
総 数	3,896	3,795
第 1 次 産 業	2,141	1,825
農 業	2,137	1,821
林 業 狩 猟 業	4	4
第 2 次 産 業	762	826
鉱 業	4	4
建 設 業	136	217
製 造 業	622	605
第 3 次 産 業	993	1,144
卸 売 業 小 売 業	402	412
金 融 . 保 険 . 不 動 産 業	22	19
運 輸 通 信 業	133	263
電 気 . ガ ス . 水 道 業	6	4
サ ー ビ ス 業	338	345
公 務	92	101

地区別世帯数と人口 (昭和45年)

地 区	世帯数	人 口	世帯比率	人口比率
美 和	391	1,608	24%	24%
国 府	656	2,741	40	41
行 幸	587	2,388	36	35
計	1,634	6,737	100	100

動 態 人 口 (昭和40～45年)

年 次	動 態 人 口					
	出生	死亡	自然増	転入	転出	社会増
昭40	79	69	10	208	196	12
昭41	73	61	12	202	270	△ 68
昭42	84	66	18	208	339	△ 131
昭43	61	66	△ 5	225	297	△ 72
昭44	44	60	△ 16	227	253	△ 26



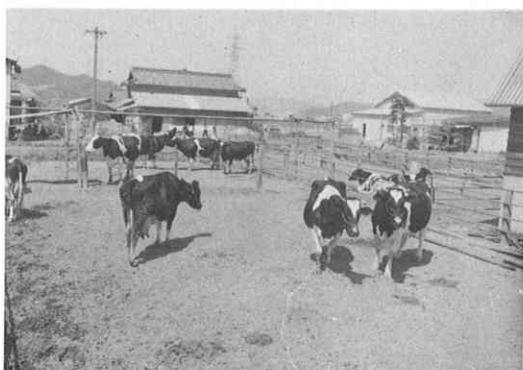
いちご出荷風景



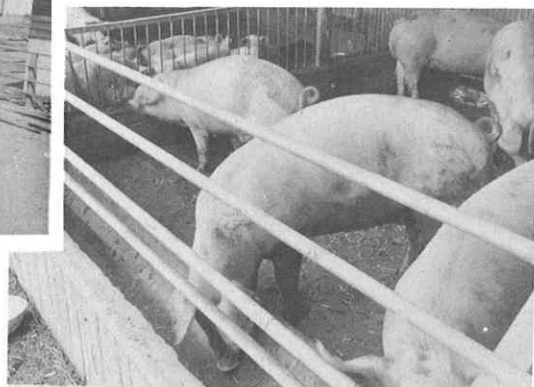
ハウス栽培

家畜飼養頭数

年次	乳牛	肉用牛	豚	にわとり
昭和 40	290	250	1,270	16,400
昭和 42	320	250	1,100	23,000
昭和 45	370	250	1,145	15,206



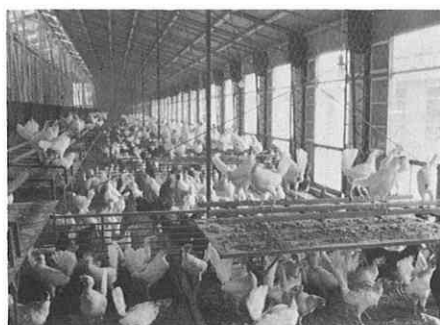
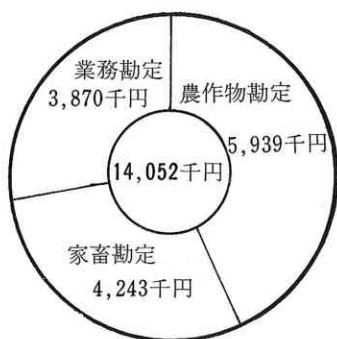
乳牛飼育状況



養豚飼育

農業共済事業

昭和45年度当初予算額（歳入歳出）



養鶏

農作物共済勘定				家畜共済勘定		業務勘定				
水稲		麦		加入頭数		事務賦課金				
引受面積	単位当り共済金	引受面積	単位当り共済金	乳牛	肉用牛	水稲	麦	乳牛	肉用牛	頭数割
ha	円	ha	円			円	円	%	%	円
810	70	95	40	300	180	80	70	1	0.6	50

建物共済、農業災害保償法に基づいて、建物共済事業は従来から実施しているが、加入率は極めて低い。最近生活様式の改善により電気、プロパン、石油等の活用により合理化された反面、危険性も増大される状況から昭和44年10月推進協議会を発足、万一の火災に備えて啓蒙推進を図り著しく上昇の傾向にある。

建物共済加入の状況

年次	農家戸数	加入戸数	共済金額	加入率
昭和 4 2	1,255	2 1 5	16,450 ^{万円}	17.1 %
昭和 4 3	1,251	2 1 1	24,070	16.9
昭和 4 4	1,248	5 5 3	57,460	42.7

建物共済推進協議会

委員 9人 推進員 19人

地籍調査

本町は昭和40年度より5ヶ年計画で町全域を国土調査法による地籍調査を実施し、44年度現地測量が終り一部面積測量、認証事業が未了であるが昭和46年には完了するので、この調査により土地に関するあらゆる施策の基礎資料として活用し利用できるのもその効果は大きい。

工 業

本町の工場数は21工場で中小企業特に零細企業がその大半を占めている。昭和42年出荷総額は 608百万円である。町内には工場適地も多く将来積極的に優良企業の誘致を図り適地の工業地帯化の推進を期している。



備前電気長船工場



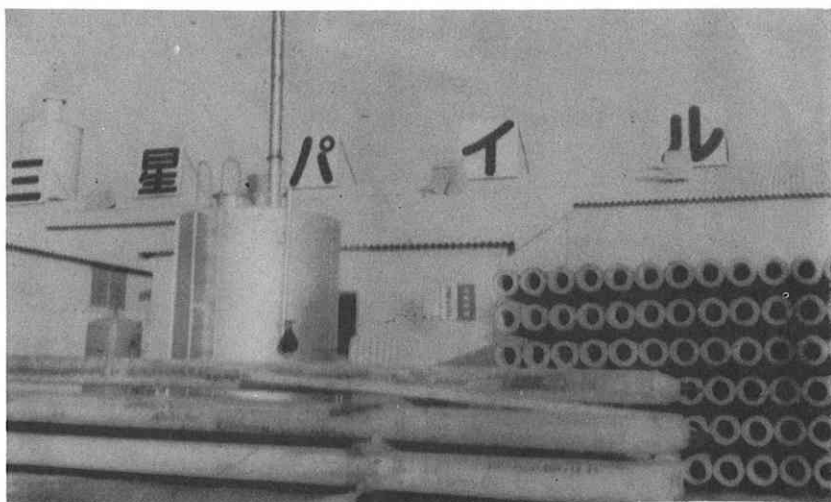
児島被服長船工場

誘致工場

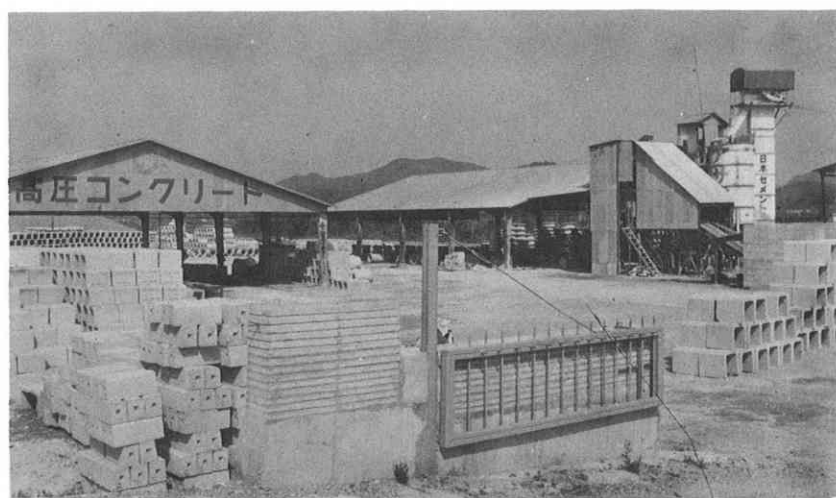
会 社 名	従業員数	会 社 名	従業員数
オハヨー乳業長船工場	12	高圧コンクリート工業KK岡山工場	55
大和コンクリート工業KK	35	三星コンクリートKK工業長船工場	25
児島被服KK長船工場	141	ハウザー食品KK	10
備前電気KK長船工場	50	大島応用化学工業KK長船工場	(建設中)

産業別事業所数 従業者数 製品出荷額等 (昭和43年)

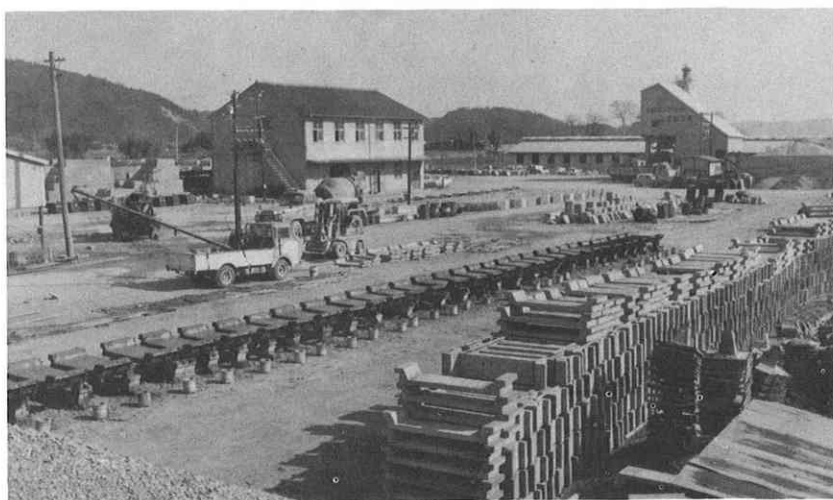
分 類	事業所数	従業員数	製 品 出 荷 額
総 数	21	440	608,100 万円
食 料 品 製 造 業	4	24	129,000
衣 服 そ の 他 繊 維 製 品 製 造 業	5	204	264,880
木 材 木 製 品 製 造 業	3	21	37,640
家 具 装 備 品 製 造 業	1	71	26,410
出 版 印 刷 同 関 連 産 業	1	x	200
窯 業 土 石 製 品 製 造 業	4	120	129,170
電 気 機 械 器 具 製 造 業	1	x	20,000
輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	1	x	300
パ ル プ 紙 紙 加 工 品 製 造 業	1	x	500



三星コンクリートKK長船工場



高圧コンクリート工業KK岡山工場



大和コンクリート工業KK

商 業

町内商店経営の実状は小規模経営が大半を占めている。商店数は 114店、従業者数は、294人年間販売額は約 796百万円で町民の日常消費生活に結びつく店舗が多い。販売額は諸物価の値上りも影響して年々増加しているが交通の発達によって、岡山市商業圏に影響することが多く今後経営の近代化、合理化を図ることが望まれている。



町内スーパーマーケット



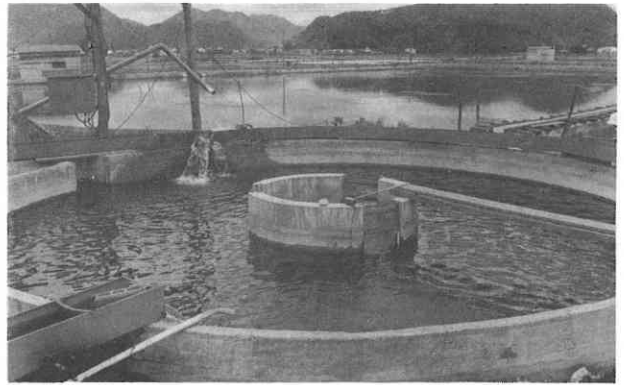
商 店 街

産業別・商店数従業員数商品販売額等（昭和43年）

産 業	商 店 数	従 業 員 数	年間商品販売額
総 数	114	294	79,648 ^{万円}
一 般 卸 売 業	7	36	19,262
代 理 店 中 立 業	2	x	x
織物衣服身のまわり品小売業	14	31	7,613
飲 食 料 品 小 売 業	49	88	15,255
飲 食 店	13	73	13,945
自動車自転車荷車小売業	5	9	1,954
家具 建具 什器 小 売 業	5	7	2,101
そ の 他 小 売 業	19	50	19,518

事業所

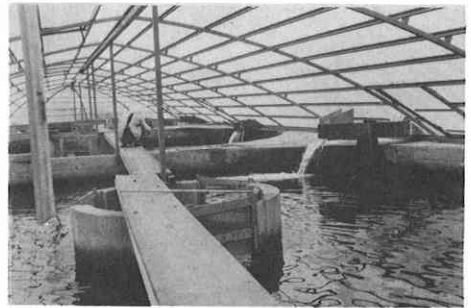
特異な事業所として吉井川養魚場が国道二号線近くにある養魚場面積60.026㎡に鰻，鮎を養殖し年々その需要も伸び将来期待されるものがある。



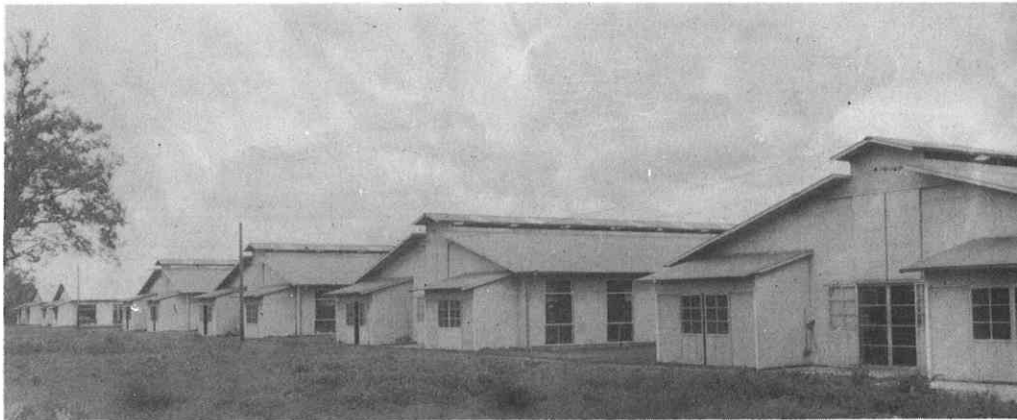
吉井川養魚場 (養鰻)

産業別の事業所数 (昭和44年)

産 業 別	従 業 所 数
総 数	2 3 5
農 林 水 産 業	2
鉱 業	2
建 設 業	4 2
製 造 業	2 7
卸 売 業 小 売 業	1 2 9
運 輸 通 信 業	6
サ ー ビ ス 業	2 7



古井川養魚場 (養鮎)



福田養鶏場

保健福祉

民生児童委員会(委員17人)その他関係団体との協力によりすべての人々の幸せと明るい地域社会実現のため幅広く積極的な活動が行なわれ、この委員会の中に心配ごと相談所を設置し毎月1回相談に応じている。生活保護世帯は減少傾向をたどっているが医療扶助費が多く支出されている。



保 育 園 で

生活保護世帯・保護費の状況（昭和44年度）

(単位千円)

保護世帯	人 員	生活扶助	教育扶助	住宅扶助	医療扶助	生業扶助	計
戸 30	人 63	3,044	281	54	8,431	45	11,855

保 育 園

近時生活様式の高度化と消費の著しい上昇によって共稼ぎや老人の出稼ぎ等急激に増え常時家庭を留守にする主婦が多くなったので昭和41年保育園を設置し幼稚園前の保育を行っている。



長船町立保育園

経営主体	施設教	定 員	備 考
町	1	(13) 105	()内は満3才未満とす。

町福祉年金

77才以上の老人及び身体の不自由な人を対象に福祉年金を支給

年金の種別	年金額	対象者	該当者数
長寿年金	3,000 ^円	年令77才以上のもの	195
希望年金	3,000	身障者等級表3級以上のもの 知能指数35以下のもの	70

国民年金

本町の国民年金事業は昭和34年11月福祉年金業務に始まり昭和35年10月から拠出制国民年金の適用事務を開始し昭和36年4月から保険料の納付、給付の事務が開始され名実ともに全面的実施の段階に入った。

保険料の納付は婦人会や関係者の熱意と協力により好成績をおさめている。

国民年金被保険者数（昭和44年）

総数	2,120
強制加入	1,287
任意加入	833

福祉年金受給権者数（昭和44年）

総数	550
老令福祉年金	525
障害福祉年金	22
母子福祉年金	3

国民健康保険

長船町の国民健康保険事業は昭和31年4月から実施され町民1人1人の健康と生活を守るたすけ合いの事業をしている。

事業開始当時は被保険者5,910人加入率77.6%であったが現在では被保険者3,146人加入率46.7%と年々減少している。

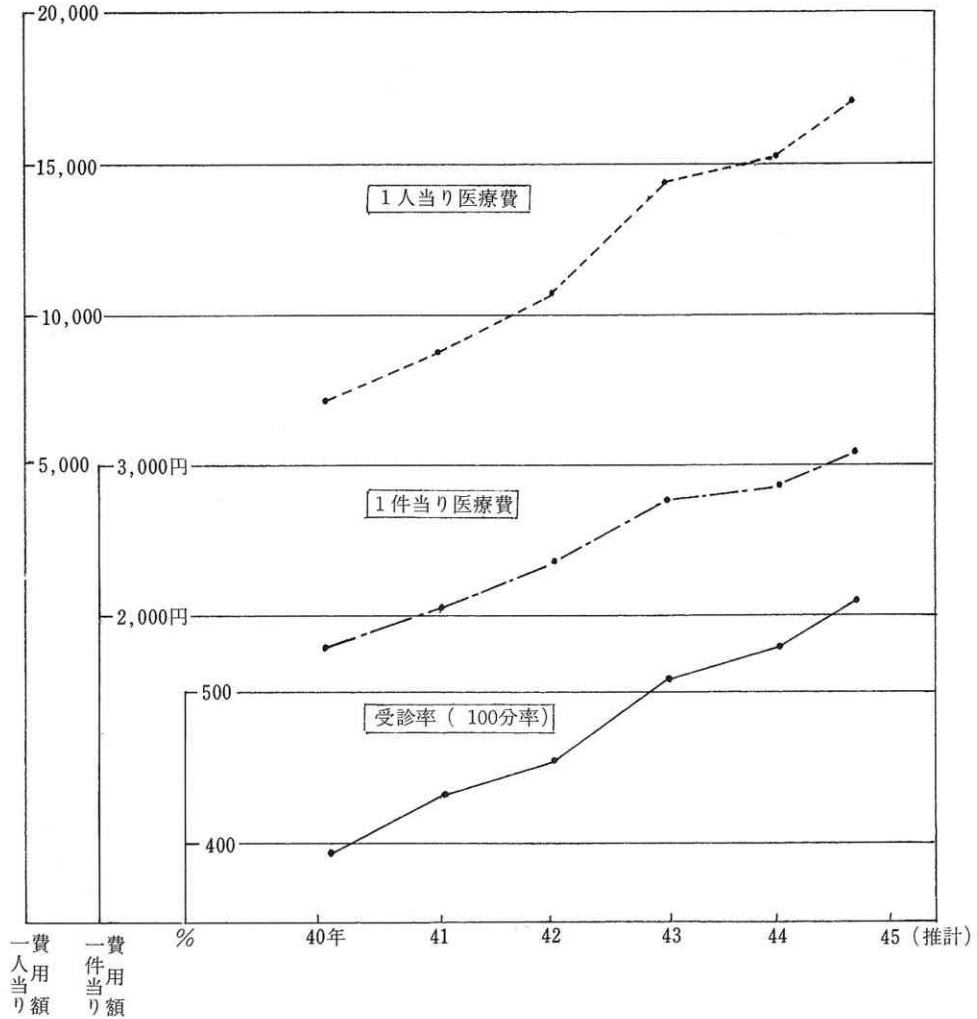


成人病検診風景

国民健康保険の状況（昭和44年）

区 分		昭 和 4 5 年 度
加 入 世 帯 数		1,042世帯
被 保 険 者 数		3,146 人
加 入 率		46.7%
療 養 給 付	件 数	17,500 件
	金 額	37,410千円
そ の 他 給 付	件 数	73 件
	金 額	429千円

医療費等推移状況（昭和42年～45年）



衛 生

健康で明るい文化生活を営むために本町では保健所、地元開業医と密接な連けいのもとに集団検診、成人病対策、予防接種など予防衛生に努め、また衛生思想の普及、及び妊産婦、乳幼児をはじめ一般町民の健康を守るために活動を続けている。



乳児検診風景

医療施設と医療関係従事者数（昭和44年）

医 療 施 設 数				医 療 関 係 従 事 者 数					
病 院	医 院	歯科医院	診 療 所	医 師	歯科医師	薬 剤 師	保 健 婦	助 産 婦	看 護 婦
1	6	2	1	6	2	1	1	2	2

各種予防接種及び結核検診実施状況（昭和44年）

区 分	痘そう	ジフテリア	百日咳	インフルエンザ	日本脳炎	急性 灰歯髄炎	ツベル クリン	B C G	結 核 検 診	
									間接撮影	直接撮影
実施数	270	301	140	1,831	2,665	82	1,160	379	2,950	130
率(%)	95	94	90	27	39	81	62	99	74	90

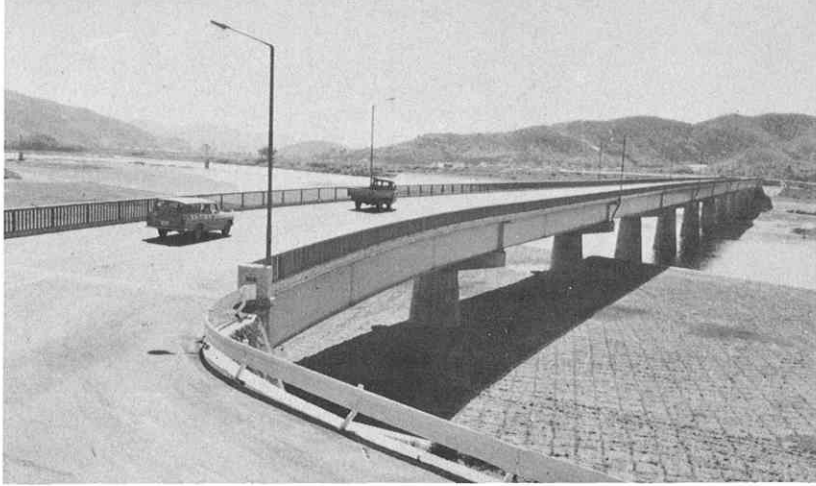
伝染病発生状況(昭和41～44年)

病 名	年 度			
	昭 4 1	昭 4 2	昭 4 3	昭 4 4
赤 痢	1			
腸 チ ブ ス				
流行性脳脊髄膜炎				
ジフテリア			1	

委員会クラブ等組織状況

名 称	組 織 数	人 数
民 生 委 員 会	1	17
保 健 委 員 会	1	18
愛 育 委 員 会	1	58
幼 児 ク ラ ブ	1	210
老 人 ク ラ ブ	12	828
未 亡 人 ク ラ ブ	3	129
環 境 衛 生 ク ラ ブ	6	680
身 体 障 害 者 協 議 会	1	90
遺 族 会	1	223
家 族 計 画 指 導	3	150

運輸通信



国道2号線（備前大橋附近）

本町西部を南北に国鉄赤穂線が走り、長船駅がある。長船駅発電車は1日上り下り共に7本と西大寺発急行が上り下りとも4本あり、また、国道2号線は町の西北部を通り、宇野バスが10～15分毎に走りいずれも岡山市まで約30分、交通運輸に欠くことのできない役割をしている。

通信については3郵便局があり電話加入数480戸近く自動式に変わるので今後は迅速化によるサービスは飛躍的な向上が期待できるであろう。

主要道路等の状況（昭和44年）

区 分	国 道	県 道	町 道			カーブミラー設置数
			主要町道	準主要町道	そ の 他	
延長 (km)	2.5	19.0	14.0	15.4	180.562	43ヶ
面積 (㎡)	27.500	95.000	42.000	38,500	385.228	
舗 装 率	100%	80%	100%			

鉄道利用状況（昭和44年）

年間乗降人員		年間取扱小荷物数	
乗 車	降 車	発 送	到 着
227,758	227,758	16,827	2,779



赤穂線長船駅

郵便局数と電話加入数（昭和44年）

郵便局数	電話加入数	（有線電話加入数）
3	480	1,165

自動車など登録数（昭和44年）

大型車	普 通 車				自動二輪	軽 自 動 車			軽二輪	原 付
	乗 用	小型乗用	小型貨物	三 輪		乗 用	貨 物	三 輪		
152	3	311	43	16	4	315	333	57	23	1,307



補装された町道



福岡郵便局

上水道

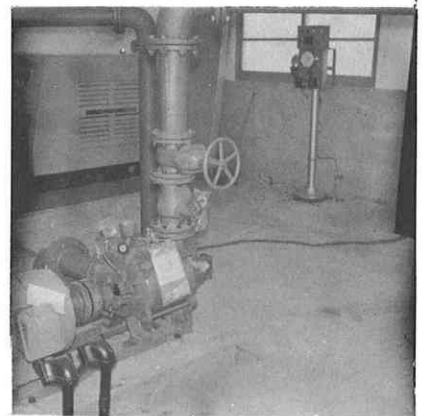
昭和32年長船町簡易水道が総工費1,500万円をかけて完成し、その後3回に亘り拡張工事、給水人口を4,500人とした。更に昭和42年全町上水道の給水を図るため総工費1,300万円を要して完成した。水源地の送水能力1日最大1,300m³、給水人口6,500人である。特に水質は県下に誇る上質の水である。



長船町水源地

上水道の状況

年次	給水戸数	給水人口	配水量	給水量	普及率
昭42	1,202	5,557	195,974	287,270	81%
昭44	1,260	5,606	202,024	287,170	93%



ポンプ室

教育文化



長 船 中 学 校

学校社会教育費（昭和45年度）

区 分	総 額	児童生徒1人当り	人口1人当り
小 学 校	11,128 ^{千円}	21,483 ^円	1,652 ^円
中 学 校	8,018	27,180	1,190
幼 稚 園	8,605	94,560	1,277
社会教育	1,193		177

町内の公立学校（昭和45年）

区 分	学校数	学級数	教員数	児 童 生 徒 数		
				総数	男	女
総 数	7	30	45	906	462	444
幼稚園	3	3	3	93	53	40
小学校	3	18	25	518	262	256
中学校	1	9	17	295	147	148

学校教育

長船中学校の教育目標

教養品格ある善良にして有能な
人物の育成を期し至誠にして努
力する健康な生徒を育成する。

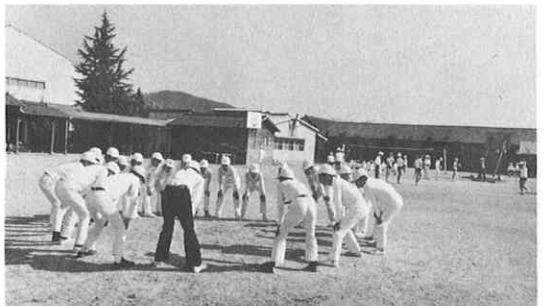
年度別生徒数・学級数推移状況

年度 学年	45	46	47	48	49	50
1 年	95	115	97	83	70	72
2 年	107	95	115	97	83	70
3 年	93	107	95	115	97	83
計	⁽⁹⁾ 295	⁽⁹⁾ 317	⁽⁹⁾ 307	⁽⁸⁾ 295	⁽⁷⁾ 250	⁽⁷⁾ 225

() 内は学級数を示す



中 学 校 体 育 館



中学校クラブ活動風景



長船中・行幸小学校
共同調理場

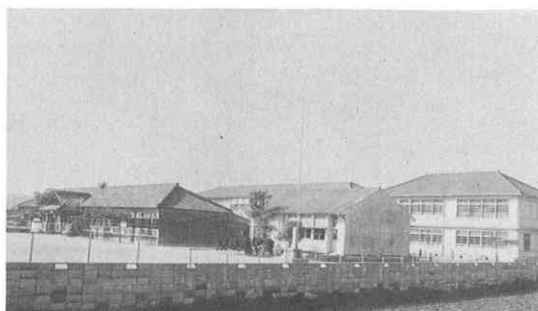
小学校年度別児童数学級数の推移

学校名 \ 年度	45	46	47	48	49
美和小	130	126	119	105	109
国府小	204	196	176	172	167
行幸小	185	172	170	171	178
計	(18) 519	(18) 494	(18) 465	(18) 448	(18) 454

() 内は学級数を示す



美 和 小 学 校



国 府 小 学 校



行 幸 小 学 校



行幸小 水泳プール

幼稚園・園児数 学級数の推移

園名 \ 年度	45	46	47	48	49
美和幼	22	18	15	20	9
国府幼	37	23	26	22	28
行幸幼	32	27	25	36	20
計	(3) 91	(3) 68	(3) 66	(3) 78	(3) 57

() 内は学級数を示す



美 和 幼 稚 園

国府幼稚園は現在小学校の一部を借りて開設しているが幼児教育の充実が重視され、時代に即応した独立園舎の必要を痛感し昭和45年度に新築の運びとなっている。



国府幼稚園



行幸幼稚園

社会教育

生涯教育としての老人教育、変貌極まりない社会構造に即応する婦人教育、青少年の非行化防止、健全育成を目的とする青少年教育のため次の団体系級を結成指導している。また社会教育の拠点として中央公民館を建設し町立図書館、文化財を展示する資料館を設け長船町文化の殿堂としての教育センターの目的を果たすため昭和46年度を期してその建設を着々と進めている。



F O S 少年団

団体または学級名	団体学級数	人 員	団体または学級名	団体学級数	人 員
家庭教育学級	3	120	老人学級	3	180
生活学級	1	60	青年団	1	70
栄養教室	1	45	小供会	10	200
栄養改善協議会	1	60	F O S 少年団	3	110



生活学級



栄養教室風景

県指定文化財

史跡

花光寺山古墳（前方後円墳）大字服部

築山古墳（前方後円墳）大字西須恵



花光寺山古墳全景

無形文化財

備前刀製作技術

長船の名刀の特色をもつ作刀技術の保持者として只一人今泉俊光氏が認定され、その技術を伝えている。

観 光

長船部落にある造剣の跡

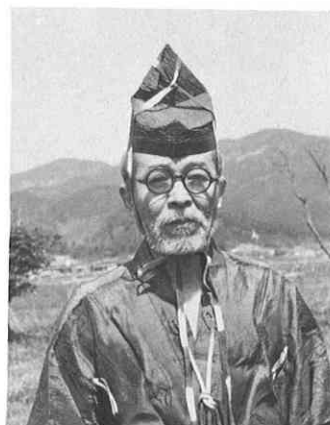
備前刀の歴史は古く平安時代に始まり長船部落を中心に全国に誇る刀鍛冶であり多くの名工を輩出し、中でも忠光長光、景光、祐定、祐永、祐包等有名である。これは刀鍛冶の遺跡を将来に残すため祐定の屋敷に大正14年建立したもので碑文は故犬養木堂の筆によったものである。



「造剣の跡」の碑

無形文化財 今泉俊光刀匠

佐賀県出身、福岡県立工業学校卒業後、大正13年児島郡赤崎に移住、勤めの傍趣味で鍛刀をはじめた。昭和20年鍛工技術保存のため備前刀復興鍛練会に備前刀匠として招かれ長船の地に在住、昭和30年より行なわれている日本新作名刀展に毎回出品連続入賞、その中6回特選の栄に輝やく、全国百数十人の刀工中3指に数えられる名匠として認められている。また昭和34年県無形文化財の指定を受け、昭和41年名誉町民、さらに43年吉川英治賞を受賞す。



今泉俊光刀匠



今泉刀匠の鍛刀作業風景



菊に一拝領
河内守祐定の墓



上野大椽祐定の墓



備前刀匠菩提寺慈眼院境内にある
歴代刀匠 供養塔

福岡城址

福岡城は室町時代初期吉井川の流れをとり入れた備前美作随一の要害堅固な城塞であった。文明15年赤松山名の勢力争いの福岡合戦は、この福岡城を中心にくり返されたもので川中島の戦いとならび称されている。



福岡城址



宇喜多直家公先祖の墓



黒田官兵衛父祖の墓

長船カントリークラブ

財団法人、岡山観光開発事業団長船カントリークラブは国道2号線にかかる備前大橋の下流にあり、河畔を眺める景観は雄大、吉井川の清流に沿ったコースは自然の起状をそのまま利用したゴルフ場である。



モーター備前長船

吉井川の清流をながめ国道2号線沿いに東備観光開発株式会社の直営による観光モーターで近代的な設備による観光地としてドライバーを楽しませている。



目で見える町民生活

これは長船町民の生活程度がどうなっているかを調査した所謂総合生活水準を図表にしたものです。

その程度（水準）を一応「よいの上」「よいの下」「ややよいの上」「ややよいの下」「ややわるいの上」「ややわるいの下」「わるいの上」「わるいの下」の8段階に分類しておりますが、昭和38年度の調査では岡山県下97市町のうち長船町は「ややよい」の筆頭で18番目にランクされておりましたが、今回の当町単独調査の結果から推定致しますと「よいの下」に向上し、県下でも10番目ぐらいに躍進したものと思います。

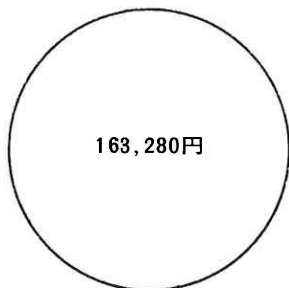
人口資質の部

出生時の平均体重		小学生の身長(平均)
男 3.181 g	女 3.169 g	1 m 27 cm
小学生の体重(平均)	小学生の胸囲(平均)	15才～64才人口率
26.1 kg	61.4 cm	66.7 %
高校進学率	家族数(1世帯当り)	未熟児率
93.8 %	4.1 人	4.3 %
出生(月平均)	死亡(月平均)	65才以上人口率
7.8 人	5 人	10.9 %
転出(月平均)	転入(月平均)	身体障害者手帳所持者
21 人	19 人	81 人

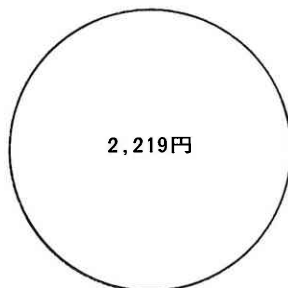
社会移動人口率	中卒就職率(町内)	水道普及率(人口)	
0.39%	6.2% (0)	93%	
道路密度	生活環境の部	幼稚園数	
2%		3園	
電話普及率		テレビ普及率	
29%		98%	
人口対医師数(1,000分率)		人口対歯科医師数(1,000分率)	
住民1,000人に 0.9人		住民1,000人に 0.3人	
民生・教育・労働・衛生費(1人当り)		保健衛生費(1人当り)	保健婦数(1,000分率)
7,758円		427円	住民1,000人に 0.15人

生活構造の部

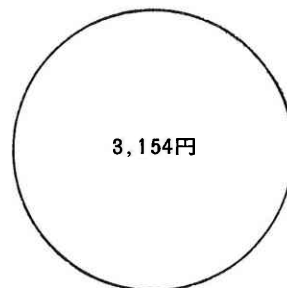
町民所得(1人当り)



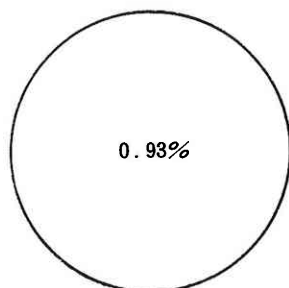
町民税(1人当り)



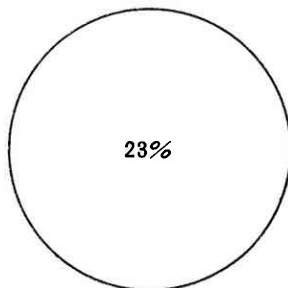
固定資産税(1人当り)



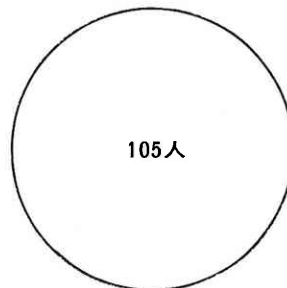
生活保護適用者率



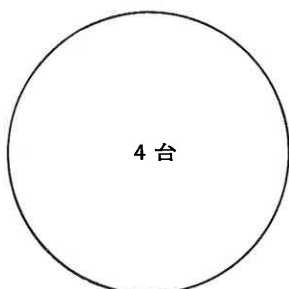
町民税均等割のみの納税者率



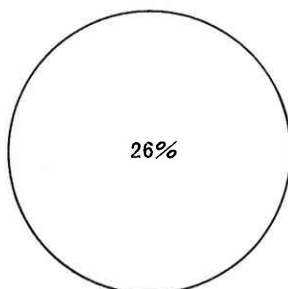
保育園定員数



消防自動車数



歳入中地方税の割合



歳出決算(1人当り)

